

編集後記

今回の特集テーマは「QOL」である。リハビリテーション医学では QOL が重要視されることは概念的にはわかっていても実際に QOL とはどんなものか仲々つかみにくい。「QOL の評価は ADL 評価に取って替るものである」という事もよく言われてきているが、日常の診療では依然として ADL の方が幅を利かせている。「これらの事がスッキリすればよいが」というのが編集者の願いであったが、結論については内容をレビューして後で述べることにする。

まず中村氏は「ADL と QOL」と題し ADL との関係について述べた。氏の論述は主観的 QOL と客観的 QOL を基本に置き、老年者、脳血管障害患者のそれらについて考察を行った後、脳血管障害患者の移動能力の調査結果について述べた。

伊藤氏は「各種機能評価と QOL」の標題で、まず QOL の概念が未だに煮つまっていない事、又他の評価法と QOL を比較した文献について考察を行った。

千野氏は脳卒中患者の QOL を Barthel Index や ESCROW を用い、日本と米国の患者を比較した。

大橋氏は心理テストと QOL について述べ計量心理学的手法が QOL にも応用できることを示唆した。

山口氏らには厚生省スモン研究班で行ったスモンを含む障害者の地域社会での QOL についてまとめていただいた。

QOL というものが大変漠然としたものだけに著者の皆様には大変な御面倒をかけてしまったことをまず御詫びしたい。いずれも QOL を検索しながらの力作であり、将来 QOL 研究の重要な文献となるものと思われる。さて私自身の感想は、QOL とは今迄の impairment や disability を測定するテストバッテリーとは明らかに異なるが何となく期待されている handicap のテストとも異なり、異次元のものらしいという事である。しかし既存の評価法との接点や交点はあるのでそこを手懸りとすべきであろう。

他に安藤氏らの成人脳性麻痺の運動能力に関するもの、岡本氏らの失語症患者の車の運転など大変興味深い。また講座 社会福祉施設のしめくりとしての座談会は今田氏の上手な司会により各々の問題点が浮き彫りにされた。歩行の講座も大川氏らの杖歩行で終る。

今年はこの号で終ることになり来年からは 16 巻になる。来年も大いに張切って頑張りたいと思っている。

(明石 謙)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
河邨 文一郎
五味 重春
砂原 茂一
津山 直一
土屋 弘吉

編集委員

明石 謙
上田 敏甫
緒方 雄
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
岩倉 博光
江口 壽榮夫
小川 孟
荻島 秀男
奥川 幸子
加倉井 周一
小島 蓉子
斉藤 正也
笹沼 澄子
澤村 誠志
高橋 勇
高松 鶴吉
武智 秀夫
土屋 和夫
土肥 豊
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
野村 敏
長谷川 恒雄
初山 泰弘
福井 園彦
松村 秩
三島 博信
矢谷 令子
米本 恭三
渡辺 英夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第15巻 第12号)

1987年12月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,650円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 21,560円)
(但し、増大号を含む)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1987, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。